

～労働と教育の場「雑草」・フローバーハウス・生活支援センター・法人・後援会だより～

# あらぐさニュース

発行/社会福祉法人あらぐさ福祉会 〒362-0051 上尾市地頭方438-6 TEL048-726-5720 048-726-5862(支援センター直通)

## あらぐさ一泊旅行 in 千葉



今年の一泊旅行は、9月16日(金)から17日(土)に千葉方面に行きました。待ちにまった旅行だったので、みんなワクワクしながらバスに乗り込みました。バスの中では、恒例のバスレクで、ビンゴ大会とクイズをして盛り上がりました。

1日目は、マザー牧場とカステラ工房に行きました。マザー牧場では、動物と触れ合ったり、アミューズメントパークで遊んだりして、楽しい時間を過ごしました。カステラ工房では、試食をしながら笑顔で買い物しました。旅館に着くと、温泉に入り長旅の疲れを癒し、その後、おいしい料理を堪能し宴会で盛り上がりました。

2日目は、遊覧船に乗りました。船頭さんが撒き餌をすると鯛がたくさん寄って来たので、みんな、身乗り出して見入っていました。その後、鴨川シーワールドに行きました。そこでは、イルカのショーやたくさんの魚を見学しました。今回の旅行も、みんながとても楽しんで、笑顔が絶えない旅行となりました。帰りのバスの中では、「来年も行きたい。」という声も聞こえてきました。(安達)

# 新 ク ロ ー ズ ア ッ プ

## ♪大塚 真也さんのこと♪



リサイクル作業の中でも、もっとも大変と言われる選別作業。それを担当することが多いのが大塚真也さんです。缶、ビン、ペットボトル…様々なものを手早く仕分け、缶だけになったカゴをプレス機に運ぶ。一連の流れを手際よくこなす姿は本当にしっかりとされていて、職員もつい頼りがちになってしまいそうなくらい頑張ってくれています。頼りになるリサイクル班の主戦力です。

そんな大塚さんの課題に『挨拶をする』というのがあります。朝の打ち合わせの際にはなかまと一緒に挨拶をしますが、朝の更衣室で一緒になった時などはまだまだ挨拶が苦手なようです。ですが声をかけると顔を赤らめてはにかんだり、どうやら恥ずかしい様子。それを乗り越えて毎朝挨拶をしてくれたら、一職員としてとても嬉しく思います。これからも作業やそれ以外のことも、楽し頑張ってくださいね! (佐藤)

幼いころは、高熱が出るとけいれんを起こし、心配していましたが、今は、全く心配していません。体力がついたのか大人になったからか、はたまた外班で鍛えられたからでしょうか。風邪もひかなくなりました。暑い日も寒い日も、自力で通所し、よく頑張っていると思います。あらぐさに通って、もうすぐ20年になります。外班では、その年月からも、仕事ぶりからも、主軸となっているようで、うれしく思っています。家庭でも、よく気が付きます。ただ利きすぎて困る場合もあります。

今後は、照れずに、誰にでも大きな声であいさつ、返答ができる、季節に合った服装ができるようになることを願っています。

よき仲間、慈愛あふれる職員の方、ボランティアの皆さん方に囲まれて、大変幸せな環境・職場にいることを感謝しています。今後とも、親子ともどもよろしく願います。(母より)

# 2016年一泊旅行 in 千葉

9月16日(金)

雑草出発 → 海ほたるPA → マザー牧場 → 南房総カステラ工房 → 満ちてくる心の宿「吉夢」到着



マザー牧場をバックに記念撮影をしました。

可愛いウサギに  
触れあいご満悦です！



お土産を沢山  
買いました！  
カステラ美味  
しかったな～



熱唱中～♪  
歌やダンスに大盛  
り上がり!!



宴会のメインはピコピコハンマーゲーム！  
白熱した戦い！金メダルは誰の手に？



9月17日(土)

ホテル出発 → 鯛の浦遊覧船 → 鴨川シーワールド → ザ・フィッシュ(昼食) → 海ほたるPA → 市民体育館到着



鯛が沢山！海も綺麗で

大きな水槽をバックに  
ハイチーズ!!



大迫力のイルカショー！  
皆、拍手喝采でした!!



海ほたるで  
旅行最後の思い出を!



## 第2クローバーハウス通信…秋

第2クローバーハウスでは、土曜開所がある前日の金曜日に体験泊を行っています。ホームに着いて荷物をかたづけおやつを頂きながらホームの仲間とおしゃべりが弾んでいます。入浴、夕食が済むと、部屋でテレビやアイドルの話題で賑やかなひと時を過ごしています。



### ただいま～かえりましたー♪

最近台風の影響でぐずついた天気が続きましたが、夕方雨が止んだ所を見計らいのんびり散歩をしています。ダイエットを目的にウォーキングをしているSさんとNさんは、息を弾ませスマホの万歩計を開いて「今日は2000歩以上歩きました！」と報告してくれます。その表情は達成感に満ちて生き生きとしています。

### 9月はカラオケに行きました

Sさんは、AKB48の歌を歌うのが大好きで就寝までの時間はCDを掛けながら大きな声で歌い楽しんでいます。カラオケでは『365日の紙飛行機』や『Everyday, カチューシャ』を元気よく歌いました。Hさんは『負けないで』を掛けると体を揺すり、マイクを口元に近づけ歌い始める様子が見られとても感動しました。

この日の昼食は夕勤職員さんにサンドイッチやデザート・ケーキなどを準備して頂き、Kさんの誕生日のお祝いパーティーも行いました。

利用者の皆さんはお腹いっぱいになり楽しく過ごした後に入浴して早々に深い眠りに着きました。

今回は、4名が参加しました。このような楽しいひと時をみんなで過ごす大切さを感じさせられた一日でした。

(相良)



## 「雑草」のこれから

日頃から雑草へのご支援ご協力に深く感謝致します。

季節は秋ですが、大型台風や地震などの自然災害で多くの人々がまだ困難な生活を強いられています。これからも引き続きご協力をお願い致します。

皆様のご協力をいただき雑草の30周年記念を発行することができました。その後たくさんの後援会員の皆様から思いの詰まった感想を寄せていただきました。ありがとうございました。理念を実現させるための努力をすることが、ご支援してくださる方へ応えることだと思います。何より仲間が地域で生き活きと生活するために、今そしてこれから何をしたらいいかを、雑草で共有し合い実践していきたいと思っています。

しかし、この国は社会保障費の削減を進め、弱者に厳しい社会になっています。新しい社会福祉法も同様です。社会福祉法人の社会貢献の義務化やガバナンス強化（統治強化、会計監査人設置）など来年度から実施です。仲間のために職員を手厚くし国からの報酬を使い切っているような法人は大変厳しい状況になると言わざるをえません。

そんな中で相模原事件が起きました。多くの方が犠牲になったことと容疑者の特異な思想は衝撃でした。大多数の人にとって認められる考えではありません。しかし、一部のネットで共感する声があったそうです。容疑者は極端ですが、勝ち組・負け組に象徴される思想がはびこっている社会と繋がっていると思えてなりません。

一方で、施設の防犯対策の強化が進められるようです。雑草も防犯マニュアルの作成などの危機管理が必要です。しかし、高い壁をはりめぐらし、鍵をかけることが最良の防犯でしょうか。地域の人たちが缶を運んでくださったり、お菓子を買いに来たり、ボランティアや遊びに気兼ねなく施設に出入りする。触れ合うことで障害への偏見をなくし共に生きる社会を目指す。「泥棒にとって一番怖いのは地域の目」だそうです。暖かく見守り合う地域社会が実現するためにどうしたらいいかを考えていきたいですね。

ここに、「新井たかね」さんの文を紹介いたします。新井さんには重度の障害を持つ娘さんがいます。娘さんは、現在「みぬま福祉会」の施設に入所しています。自立支援法が施行された時、勇気を持って国に訴訟を起こした原告団の一人です。私たちに進む道を示してくれる内容と思い、掲載の許可をいただきました。

私たちが人ごとでなく、自分自身の差別意識を見つめ克服することから始めなければならないと思います。

## かけがえのない 全ての生命が 輝く社会であるために

新井 たかね

重症心身障害のある娘は 44 才になります。

今回の事件を知った時、娘と同じように重い障害のある方たちが、声も上げられずに、どんな状況で命を奪われたのかを考えると胸が潰れる思いでした。容疑者が元職員であり、さらに障害のある人たちの命と存在を否定する言動をしていたことを知った時は、憤りに体が震えました。

この事件の背景に、優生思想があると言われてはいますが、この日を境に、私自身はどうであったのか向き合ってきました。娘の障害を受け入れるまで、簡単ではない道のりがありました。

生後 5 か月の時「脳性麻痺」と診断され「幸せに生きていけるのだろうか」と、娘に謝りながら不安を抱えての日々でしたが、一步一步克服してきました。

その一歩は、娘が生まれる前に、感銘を受けていた木村浩子さんの本に出逢っていたことにあります。わずかに動く左足で絵を描き、短歌を詠み、子育てをモスル、あの女性の生き方を否定するのかと、私自身に問い直しました。

もう一歩は、養護学校義務制の 4 年前に開校された川口養護学校の準備室の先生が、重症心身障害児を守る会に見え「みなさんのお子さんも入学できるよう一緒に声をあげましょう」と呼びかけた時です。あるお母さんが「うちの子は教育を受けても社会の役に立つとは思えない」と言われました。それに対し「どんなに障害が重くても社会の役にたっています。生きている、それだけで周りの人に自分の生き方や社会のあり方を考えさせてくれる大切な存在です」と話されました。こんな価値観があるのだと。その、衝撃を受けた言葉にずっと支えられてきました。

もう一歩は、3 才の夏、全障研の埼玉大会に娘を連れて参加した時です。「発達は無敵という考え方、娘にも当てはまるのでしょうか？」と声を震わせながら質問しました。多くの方から子どもたちの発達の様子が話されましたが、私は「娘には当てはまらない」と言ってしまいました。

休憩時間に「発達すると信じること。とにかく集団の場に入れなさい。生活リズムができ、健康につながり、必ず発達につながりますよ」と話しかけられた、その言葉に背中を押されました。

就学前の母子通園施設に通い、「障害の重い子は学校の宝」と熱く語る先生方に教育を受け、今、娘らしい人生をと思い惜しまぬ支援をよせてくれる職員のみなさんに出逢い、更に自立支援法違憲訴訟の原告として、この時代に生きる者としての役割を担えたことも大きなことでした。

娘と私には、大切な出会いがあり、学ぶ機会に恵まれ、育ちあい手をつなぎあう仲間たちにも恵まれ、心の奥底にあった優生思想的な考え方を克服してきたのだと、今回の事件を通して気づかされました。

社会もまた、人権や尊厳を学びながら、優生思想を克服する努力を重ねてきたのだと思います。

近ごろ、政治家の、障害者や高齢者、女性に対する人権侵害・差別発言が続いています。それを許している社会の風潮から、容疑者は学んでしまったのではないかと思えてしかたありません。

政府もまた、自立自助、自己責任を強調し、社会的に困難を抱えている人たちに対する、差別偏見、排除に拍車をかけてはいないでしょうか。命と人間の尊厳を守ることは政治と行政の最も根本的な責務です。

私は、今回の事件のなかで、入所施設を問題視する意見が出ていることにも心を痛めています。重症心身障害者の医療に尽力されてこられた、高谷清先生が「施設で暮らすのか、地域で暮らすのか」が問題ではなく、周囲とどれだけ豊かなつながりをつくれるのかが大切だ」と言われ「生活単位を小規模にして、家庭的にすれば良い」と発言されていることに勇気をいただきました。

娘は「私だったら、こんな所に住みたい」と、そんな願いや知恵を集めて作り上げた入所施設で暮らしています。人権を最大限尊重し、一人ひとりの人生を豊かにと願う支援が重ねられ、そこには豊かな人間関係・信頼関係が築かれています。娘は呼吸に困難を抱え、呼吸補助装置をつけ、肺の中からのリハビリに取り組むことになりました。意思表示することが困難な障害の重い仲間たちが大勢いるなかで、先日、ナースから全員に娘の状況と呼吸補助装置についての説明が行われました。説明が終わって、2人の女性が懸命に車いすを動かし、娘の傍らにきて手を握って泣くのです。いかめしい装置に驚いたようです。「心配してくれたのね。楽になるのだから安心して」と話すと納得してくれました。「みんなで見守りますからね」と伝えてくれる人、私の手に「治るといいね」と書いてくれる人もいて、この時「娘の家族はここにいる」と思うことができました。家族を自から作ることが難しい娘たちが、心通わず素敵な家族を作っています。

障全協が昨年度行った「介護者の健康に関する実態調査」では、主たる介護者の 91%が母親でした。自由記述欄には、不安な毎日、先を考えると心配と、不安・心配の文字が並んでいました。会津の方からは「自宅から通える学校がなく、親たちと学校づくり運動、卒業すれば作業所運営、制度が替われれば NPO を立ち上げ、力の限りやってきた。親たちはすでに 70 代・80 代。自分に何かあったらと不安な毎日。GH が夢だが資金のことを考えると夢で終わりそう。こんなに頑張ってきて、今なお安心できない毎日なんておかしいです」と。そして、80 代と思われる方は筆ペンで一言「人生に疲れた」と書いていました。その文字が私の脳裏には焼きついています。

埼玉県では、入所施設の待機者は 1400 人になり、私のすぐ近くで、母親がわが子の命を絶つ事件が続いています。同じ時代に生まれながら、娘たちとの、大きな違いに慄然とします。

政治や行政の不作為によって悲劇が起きているこのことにも、今、しっかりと向き合うことが必要です。どんなに障害が重くても、生まれ育った地域で安心して暮らし続けられる、設備と人材の整った入所施設の整備は喫緊の課題です。

施設から地域へと、命がけで地域生活を切り拓いてこられたみなさんの努力には、心からの敬意を払うとともに、その深い思いに共感しています。

一方、意思表示することが難しい、自分の暮らしをプログラムすることが難しい娘たちの、暮らしの場のあり様についても、この機会に共有していただきたいことを切望します。

JD では 2013 年 5 月「障害者の入所施設改革に関する提言」をまとめました。提言に基づき、閉鎖的で管理的、人権が蔑ろにされているという入所施設の改革・改善にも早急に取り組まれることを、心より願っています。

最後に「かけがえのない、全ての生命が輝く社会の実現へ、手をつなぐ輪を拡げに拡げていきましょう！」このことを申し上げ、私の発言とさせていただきます。

## 後援会のページ

### あらぐさ 30 周年記念誌発刊講演会

8月30日(土)みぬま福祉会後援会、会長足立早苗氏の講演会を行いました。

講演前の7月26日に起きた、神奈川県相模原市「津久井やまゆり園」の殺人事件で犠牲となった皆さんに黙祷を捧げました。このような事件が二度と起こらないように、また障害の軽重に関わらず命・人権は平等ということを社会に向けて発信していかなければと思いました。

さて、みぬま福祉会はあらぐさと同じ時期に設立され、現在利用者 230 名・職員 217 名(正規職員 104 名)で 10 以上の事業を行っています。

あらぐさとは比較にならない程規模が大きく、常に情勢に目を向けて、社会を変えていこうとする姿勢をお持ちです。また、仲間や家族、職員それぞれを大事と考え、今何が必要か、改善するためにはどうすればよいかを常に考え実践していく力が凄いなと思いました。

規模が大きいだけに、後援会活動も毎月あり、多くのやるべきことを確実に実施されていることにただ感心するばかりです。

「後援会は車の車輪です」とお話しされておりましたが、私たちも“あらぐさ”にとっての車輪となり、車体である“あらぐさ福祉会”を皆で支えていく熱いエネルギーをもらいました。

9月11日(日) あげお元気祭り(丸山公園)模擬店出店につきまして、暑い中、大勢のお客様が買って下さいました。ありがとうございました。

#### 【今後の活動】

◎模擬店出店

10月16日(日) ふれあい広場 (丸山公園)

10月23日(日) わくわく公園まつり (水上公園)

11月12日(土) 上尾産業祭 (市民体育館)

13日(日)

◎施設見学

8月実施予定でしたが、台風の為中止になりましたので新たに行いますが未定です。



後援会賛助会員を募集しております。

年間 1口 2,000 円です。宜しくお願いします。

あらぐさ福祉会後援会 会長 高橋弘美

## \* お知らせコーナー \*

### ◆お歳暮に雑草のバタークッキー詰め合わせはいかがでしょう？

\* 詰め合わせサンプル例 \*



200 円袋 6 個入り 1,300 円



200 円袋 10 個入り 2,100 円

間もなくお歳暮の季節です！

今年も是非お歳暮に雑草のクッキーはいかがでしょう。

一味違う雑草のクッキーは、とてもご好評を頂いています！

ご予算に応じてお作りします。

郵送も承ります。



300 円袋 10 個入り 3,150 円

お求めは、「雑草」までご連絡ください。 **048-726-5720**

第1クローバーハウス 夜勤職員を募集しています！

仕事 ⇒ 身体介護(入浴・排泄・食事等)、朝食作り、洗濯、掃除

給与 ⇒ 深夜割増手当有(1勤務 13,500円)

時間 ⇒ 16:00~翌9:00(実働14h) ※週1回からOK

待遇 ⇒ 労災保険、交通費規定支給車通勤OK

詳しくは雑草まで！ 048-726-5720 荒川

#### 【編集後記】

先日、一泊旅行がありましたが、仲間と同じように私もとても楽しみにしていました。仲間と昼夜を問わず行動を共にした事でいつもと少し違う一面も見え新しい発見もありとても有意義な2日間でした。これからも、この楽しいイベントが毎年行えるように又、みんなで楽しめるように日々の仕事に励みたいと思いました。(高野内)